

令和4年6月7日

岡山市長 大森 雅夫様

岡山市子ども医療費助成制度の
あり方等に関する検討会

座長 平田 洋

岡山市子ども医療費助成制度のあり方等に関する検討会意見の報告について

令和4年4月22日(第1回)及び令和4年5月20日(第2回)の2日間で実施した、「岡山市子ども医療費助成制度のあり方等に関する検討会」において、各委員から寄せられた意見を報告書として提出いたします。

1 対象の範囲

- ・中学生は骨折など外傷の疾病が多いため中学生まで
- ・中・高校生はホルモンバランスの崩れなど、この時期特有の不調が出てくるため、高校生まで
- ・優先順位をつけるなら、小学生、中学生、高校生の順番
- ・特定の層に手厚くではなく、広く医療に掛かりやすく高校生まで
- ・政令指定都市の岡山市が子育てしやすい街として18歳まで

2 負担のあり方

- ・小学生はアレルギー治療等の慢性的な疾病が多く長期の受診が必要なため、小学生を無料
- ・中・高校生はホルモンバランスの崩れなど、この時期特有の不調が出てくるため、1割負担
- ・高校生までを無料に、無理なら、せめて義務教育の間は無料
- ・入院を無料にしてもコンビニ受診はないため、高校生の入院は無料
- ・複数育児の保護者の医療費負担や街中から離れている人の医療機関への交通費負担(タクシー代)が必要となるため、医療費は無料
- ・不要不急の受診が増える可能性があるなら一部負担を
- ・検討会に配布された資料より、無料にすることで、高校生は大きな影響はないが小中学生は1回受診当たりの医療費は増える傾向を懸念
- ・1割負担を残すことで正しい受診行動の意識づけ
- ・慢性疾患患者さんのためには、月額上限額(44,400円)を下げる
- ・市の財政状況も見ながら検討すべき

3 医療機関への影響

- ・無料化した場合の負担が増えることへの懸念
- ・現行の1割負担という制度が受付事務の負担ではない
- ・負担を定額や1回500円などにすることが事務の軽減にはならない
- ・コスト意識が働く償還払いの場合は、事務作業が増加し現実的には困難
- ・現物給付の方が事務はスムーズ
- ・拡大は賛成だが医療機関側の余分な負担を懸念
- ・現在、初診時選定療養費で必要な医療提供体制は確立

その他

- ・市の財政を圧迫して将来の負の遺産になるのでは
- ・子ども施策全体の中で総合的に検討を
- ・市民の方々が受診する必要があるかどうか判断できる手段の確立
- ・ホームページで夜間などの緊急医療体制の見える化

岡山市子ども医療費助成制度のあり方等に関する検討会 委員

氏 名	所属・役職
江口 直宏	一般社団法人 岡山市医師会 理事
齋藤 信也	岡山大学大学院保健学研究科 教授
辻 尚志	岡山赤十字病院 院長
濱野 昌子	岡山市民生委員児童委員協議会 理事
◎平田 洋	一般社団法人 岡山市医師会 会長
榎原 茂恭	岡山市PTA協議会 会長
萬木 章	岡山市立市民病院 小児科 主任部長

◎：座長

(敬称略、五十音順)